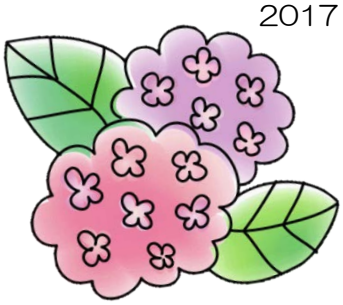
さっぽろ第２支部 支部だより第８号
発行／公益社団法人北海道看護協会　札幌第二支部
2017年12月

あじさい



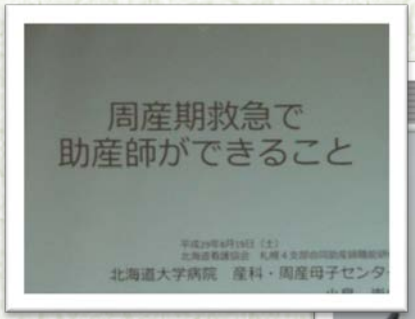
看護管理者育成研修　平成29年9月14(木)･15日(金)
「支部担当研修(北海道委託事業ー看護管理者地域別研修)」

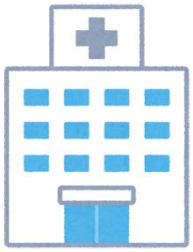
平成29年9月14、15日に「看護管理者育成研修」が開催されました。この研修は、北海道委託事業ー看護管理者地域別研修の一つとして行われており、看護副師長・主任・師長補佐の任にあるものが、全道から参加する支部担当研修です。今年度は、51名の参加があり、1日目は講義、「看護の動向・看護管理の基本」、「スタッフ育成」、2日目は「師長補佐の役割と実際」の講義、グループワークを行いました。参加者は、30歳代後半から40歳代の方が多く、平均年齢41.3歳、北は豊富町、東は遠軽と遠方からの参加がありました。師長補佐経験は、3年前後の方が多く、中には、これから昇任するという方もいました。参加者からは、「主任の役割が再認識、理解できた」、「スタッフとの関わりの技法や、管理職としての働き方が学べた」などの講義に対する意見がありました。また、グループワークについても「課題が明確になり取組の方向性を考えていく」「悩みを共有でき気持ちが楽になった」などの意見があり好評でした。研修のはじめは、不安げな表情をしていた参加者も2日間の研修を終え、笑顔が見られ、各々が自己の課題を明確に出来た研修になりました。

助産師職能研修会(札幌４支部合同)　平成29年8月19日(土)
「周産期救急で助産師ができること」

「周産期救急で助産師ができること」をテーマに、北海道大学病院産科・周産母子センターの小島崇史先生を講師に迎え、8月19日に札幌4支部合同助産師職能研修会を開催しました。研修会には103名の参加者があり、関心の高さが伺えました。北海道大学病院における周産期救急シミュレーションの取り組みについて、動画を用い、説明して頂きました。

その中でも超緊急帝王切開のシミュレーションを、産科、麻酔科、手術室看護師と合同で行い、お互いの仕事への理解が深まり、他部門との連携の大切さを実感しました。参加者からは、「シミュレーション教育の重要性が実感できた。」「自施設でもやってみたい。」との声が聞かれ、有意義な研修会となりました。





～働き続けられる職場づくり推進委員会～

小規模病院等施設間交流研修に参加して

小規模施設等に働く看護職員が、施設間交流・実施研修を行うことにより看護の質の向上・業務改善に努め、地域内連携を促進、ネットワークの充実を図る目的として行っています。

今回は、「在宅看護研修」で訪問看護ステーションに研修で参加された会員お二人の方の感想文です。

研修参加　9月13、14日

外来看護師として在宅看護は、介護負担や介護困難などのマイナスなイメージを持つ傾向がありました。

この研修に参加して、そこには患者本人の退院後にどうある姿を望んでいるのかを考え、訪問看護師スタッフと密に連携をとり、入院した段階、早い時期からの退院支援に向けた介入が必要だと再認識することができました。

K・Y

研修参加　10月2日

研修では、病院、訪問看護ステーション間の連携の実際や訪問看護師がどのように患者・家族を看ているかを知ることができました。

退院後、訪問看護師へ看護を引き継ぐには、細やかな連携が必要であることを実感しました。それには、看護サマリーで継続すべき看護が明確になっている事が必要です。退院後の看護を考える上で在宅での生活状況を把握するには、病棟の看護師が退院前・退院後訪問を積極的に行うべきだと思いました。そして、このような研修にこれからも多くの看護師が参加できれば良いと思いました。

M・A

お知らせ

平成30年度 札幌第二支部大会

日　時：平成30年2月17日(土)
13:00～（受付開始 12:30）

場　所：札幌ビューホテル大通公園

支部大会同時開催　三職能合同交流会

テーマ：「女性のライフステージとエストロゲン」

講　師：NTT東日本札幌病院 産婦人科部長
西川 鑑(にしかわ あきら)先生

※参加は札幌第2支部会員に限ります。交流会のみの参加はご遠慮申し上げます。

《 編集後記 》

今年の紅葉は例年になく鮮やかで白銀までの束の間の彩りを堪能しました。
落ち葉が流れていく河の流れを見ながら、鴨野長明の言葉を思い出しました。
「ゆく河の流れは絶えずして、しかも元の水にあらず」
一見何事もなく過ぎていく日常ですが、確実に医療の世界は変化していることを実感する日々です。
人工知能と共存して看護実践する日もぼんやりと見えてきている感じもします。
何とかついて行かなければと必死です。皆さんはいかがでしょうか？　　広報出版委員　A・T